



東広島市立八本松小学校学年通信
第6学年 令和8年2月13日 NO. 13

薬物乱用防止教室

2月4日(水)に、学校薬剤師吉田雄樹先生をお招きし、薬の正しい使い方や薬物の危険性について教えていただきました。

イラストや映像、動画を交えながら、薬物は、「役に立つ薬」「害になる薬」という二面性があることを学びました。用法・容量を守らなければ、「薬物乱用」になると聞き、驚いた様子の子ども達でした。また、東広島市内の「オーバードーズ」による緊急搬送が10代、20代に多いことを知り、自分たちの身近にも、薬物の危険性が潜んでいることを感じたようでした。



子供たちの振り返りから

10代の私たちと年が近い人も薬物を利用したり、たばこを吸ったり、お酒を飲んでいる人もいました。

誘われても、自分は断れるか不安なので、断る言葉を考えたり、友達や家族に相談したりしたいです。

風邪や熱ではない元気な時に、薬物を飲むことはいけないこと、一度に決められた量を超えて飲むことを「オーバードーズ」と言い、やる気が出なくなったり、命に関わったりすることを学びました。

もし、たばこを吸ったり、お酒を飲んだりすることに誘われたら、すぐに断ることが大切だと分かったので、もし誘われたら、教えてもらったことを生かしていきたいです。

薬物を乱用して、気分がよくなったり、快感を感じたりするかもしれないけど、効果が切れるとまた使いたくなくなってしまい、精神的に異常をきたすことが分かりました。一度使うとやめられなくなってしまふことが怖いと感じました。薬物やオーバードーズをしない人たちが増えたらいいなと思いました。

シンナーや覚せい剤などの体に悪い薬物は、使ってもメリットはなく体に深刻な影響が出ると知り、「気分が良くなるよ」などと誘われてもきっぱりと断ったり、しつこく誘ってきたら逃げたりして、薬物には絶対に手を出さないようにしていきたいと思いました。

保護者の方から

薬物には依存性があり、一度乱用すると、自分の意志ではやめられなくなるとても怖いものだと思います。

「一度だけなら」と薬物の誘惑に負けないよう強い意志をもつことが大事だと思いました。

親の目が行き届かなくなったとき、自立していく過程で親の元から離れていくとき、自分たちが生きていく世界で、もしかしたらこういった物に遭遇してしまう日が来るかもしれません。その時に自分の意思をしっかりともってほしいと思います。こうやって学んだ事が活かされてほしいと願います。

使用者の低年齢化や、簡単に手に入りやすい環境になっている事もよく目にする今日…正しい知識を身に付け、じぶんを大切にして過ごしてほしいです。

薬物を乱用するとどうなるのか、もしも人から勧められたらどうするかなど、質問しながら聞くと、今日の話の思い出しながら教えてくれました。

薬物に手を出してしまうきっかけとして、何かの悩みがあると思うので、困ったときには打ち明けられる親子関係でいられるよう日頃からしっかり話を聞くようにしようと思いました。

薬物乱用についての話を聞き、薬物乱用が引き起こす害の恐ろしさを再認識すると共に、子供にもこの恐ろしいと思う感情や絶対に薬物乱用しないという思いをもち続けてほしいと思いました。

薬物について家では一緒に話をしたことのない内容だったので、今回の学習で簡単に手に入ってしまうこと、手を出してしまうと危険だということを学んだようです。